

# ペイント番長の3回焼成ステイン法～基礎編～

横田 浩史（よこた ひろふみ） Signature Dental Lab, CANADA

近年、審美歯科の補綴材料は、GOLDの高騰、CAD/CAMの精度向上・量産化による低価格化実現などの理由から、従来のメタルからジルコニアやプレスセラミックスへと移り変わっている（筆者のラボでも90%以上の補綴物は、いまやノンメタルである）。特に、従来のロストワックス法を活かしつつ、短時間で審美をコントロールできるプレスセラミックス&ステイン法に注目が集まっている。

しかし、術者の平均レベルの高い日本国内においては「表面ステイン」だけでは、「色が合わない」、「天然歯に見えない」、「手抜きだ」などとマイナスイメージがあり抵抗感があるだろう。

そこで、今回は、筆者が日常臨床で結果を出し続けている「3回焼成ステイン法」の極意についてお話したいと思う。プレスセラミックスの持つ不透明感・明度・色彩・色相、および支台歯、歯肉の色を適切に読み取り、単色のセラミックスの表面に適切にステインをするだけで合格点を出すことを目標とする。

1991年	東邦歯科医療専門学校卒業
1991～98年	日本（埼玉、東京）で就業
1996年	駒澤大学経済学部経済学科卒業
1998年	早稲田歯科技工トレーニングセンター東京校（16期ナイト）卒業
1998～99年	中国（上海）で就業
1999～2002年	米国（シカゴ）で就業
2002～現在	カナダ（ビクトリア）で就業
2006年～	早稲田歯科技工トレーニングセンター非常勤講師
2008年～	海セミ主宰
2011年～	埼玉歯科技工士専門学校非常勤講師
2013年～	東邦歯科医療専門学校非常勤講師